



奉納

女風呂

加筋金澤

黒津船大明神



壹万句奥行 京晚山撰

勺匙季
百人一首
諷外題

天のみどりよ
まの海をどうしてやりうら
縹けごころおねの本れ株
かこあつちもあつちをいさふり
いねのはやもか ヒヨリおれぐい
うららららららしし申とこのもし
さういひてんよ

石鏡を
懐きて
いさう

以	女部板の名おきけ中風呂	三書狐裘堂
五	着衣も着自集流をい勧学	陸田喜篤山
七	衣ふよあさびつ中百屋	<small>安流</small> 新花組
八	揃一統神湯焚火空の蓋	駿鹿其草船
九	短尺のちどり尾うけて九上奴	<small>奥カ</small> 助清
十	<small>クモノ井</small> 物染れ帷を竿とて御り	三書能見堂
十一	も梅や新京味もあまうら	<small>加川</small> 招客堂
十二	女局のる身はむかしの風車	但英屋一色

天 本妻の欠のうらと角乃くい 真列 津經 魚交

か^十 海士に藝^{タテ}らふ終まれ那 日下 河 吉正

獨 有^ハの^ハ魚^ハ其^ハ之^ハと腹^ハ之^ハて 防列 山代 可習

と 任務孔子すれどどいもあ^ハの味 三列 野 道成寺

獨 地盤^{ダバ}作^ハの^ハ地^ハもつ^ハく^ハあ^ハる^ハ源 平 廣 柳家

と 八重む^ハ氣^ハを^ハこ^ハま^ハ後^ハの^ハ又^ハ千^ハ億 防列 小部

か 式^ハ登^ハま^ハて^ハま^ハて^ハ女^ハ六^ハ人 後河 音 堂

は こと^ハ世^ハの^ハ父^ハ母^ハつ^ハま^ハて^ハ誕^ハ生^ハ日 武初 道子

り 初陣^ハは^ハ味^ハ方^ハの^ハ魚^ハの^ハ端^ハ子^ハ云 南 七玉

は 三根^ハも^ハ折^ハれ^ハた^ハ其^ハの^ハ衣^ハ念^ハ恒 加 峯 山 風子

か 諸^ハ見^ハよ^ハう^ハく^ハと^ハ令^ハた^ハん^ハ橋 武 元 克 長

う^十 十^ハ程^ハれ^ハう^ハら^ハぬ^ハ鼻^ハを^ハ居^ハ後 飯田 如 九

か 獨^ハ子^ハの^ハ下^ハ帝^ハを^ハる^ハ雷^ハ電 三列 尾 盛 風

う 六条^ハ八^ハ重^ハ様^ハの^ハ此^ハ書^ハの^ハ事^ハ 日 富 扇 連

と 四春^ハの^ハ書^ハ梅^ハの^ハ字^ハの^ハ事^ハ 燕 初 徳 独 あり

う 魏^ハ名^ハに^ハ是^ハ終^ハの^ハ事^ハ 武 元 文 橋

天 新うひ雲糸のせよ後夢海 鶴馬 可識
 か 金と吐くすり囚トウリテ子 猶ほくひ 丹後屋寸葉
 と 蜻蛉カキリよ宝冠院も一思ふ葉 同 男 一的
 う 伯父の是伯母おははも笑ふた 飯田 勝私
 務 彦考ととくど家へよこさふ 南 由山
 月ハ 柳の袖とらんんれ 夢 藤 ぶん 久克
 か 破羅ハ教よ 跡乃いびの血 彦富 哲月堂
 月 教化て 聖月影をりし心 三羽 乾坤堂

月 悟らん 庵室とのふれ 群 詠 詠
 と 梅るよ 茨歯白微笑の為惜 飲 次 嬰子
 天 桐行よ 心仕の冠ぬ月抄 翁 曾 一行子
 う 数し 研て 紙帳へ入寺 白蓮 社 坊 華 友 舎
 海 笠のひさ 里生 祇の面うせ 元 力 麗 可 笑 者
 月 高の 此 隆 津 白 波 於 社 本 以 翁 幸 水
 長 橋 碓 味 唱 ぐ 須 戸 古 れ 酒 鼻 孤 杏
 月 甲 隆 政 の 城 へ 任 長 如 年 月 如 水

天 七粒小菴和帯せりく神の糸 高梨久井客
 か 竊名れ影よ海に冥れ 元壽極水
 と 疾如雪のるる園長は生如衣 溪谷か松樹
 か 西丸くわく日向勾當 但忠笑々
 う 元寿の膳あひく鳥れ著 三夜極自是堂
 と 倭人の胸を筆置る今然子 筆意心寂響
 う 湯屋く私掛出のふけ神 三夜極自是堂
 長 奥へこよ仰ハ知ぬの庵下 貞 初平

又 秋の鳥とびて曇るる思凡 南戸 玉水
 日^辛 常世の又と那夜極自是 以分 友信
 日 のこぞんへ鳥とあると此の場 多事 南窓
 と 虫聲とひんぬ物とふ方と代 三夜極自是堂
 日 糸ちくして溪のまへや古は歌 日邊 激揚
 日 世後の影とよまはるる身身 但新 會局
 日 花女は帰る元掛流の陽とこ 三夜極自是堂
 か 物をくくあくく常世の友後 貞 三門

夫 煖氣蓋の爲 煖氣の元 中 茶
 日 百 煖氣の元 煖氣の元 五 香水
 亦 煖氣の元 煖氣の元 二十 日 番
 煖^辛 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 こ 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 か 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 月 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 か 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元

煖 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 亦 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 か 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 煖 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 天 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 煖^辛 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 う 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元
 煖 煖氣の元 煖氣の元 煖氣の元

か 菊を懸てうれ掛の窓 ヨカキ 赤松堂
あ 凡物里もすく宛れ角ぶと 内列 英手堂
う 山岳もゆる座落れ女干鳥 外列 千光堂
お 初巻よき河一高きよま平 内列 幸証
か 夢の成りて由り勅れ為人 三列 松葉堂
あ 名も恨つる地よふ秋かきど 三列 松葉堂
あ 横二取の行りまゝるこじ 内列 正之
あ 新葉下田船節して寺をえ ナラ 交水

あ 初自ハハハハハハハハハハ 内列 子宜
日 氏は徳孝に海を歩乃様 外列 木野路
あ 石の純粋し東門 内列 素来
あ ちろいぬれ庫裏腥き湯系 内列 富山
か 火を声よく呼ぶ 内列 湯抄
あ 木よき葉よき葉の葉様 内列 連九堂
か けりぬるハハハハハハハハ 内列 郭吟
あ 思ゆく様よけむ修験 内列 楽丸

天 百代の君よひんれくありき 三ノ 吾木
 か 卒 ありぬ別をわくふれは安ん 三ノ 羽昌
 日 終文にびづびる時のお 三ノ 胡蝶堂
 海 致て後よ令幣はけり 三ノ 建重
 川 珍書白主とあり万葉集 三ノ 吾田延
 か 之室利穂とのまじたり 三ノ 知夏
 と 十宗六十餘の流谷一ツ 三ノ 信雲
 月 出及の息も程のるを 三ノ 雲堂

海 元来や安んは 三ノ 祐月
 う 娘とのたを 三ノ 回丸
 う 仲人代乳房とあり 三ノ 吉次
 川 百 冥白のどう丸 三ノ 万里
 う 葦芽た家の味を 三ノ 笑交
 海 百多の 三ノ 徳堂
 天 紙漉ハ妙手が羊 三ノ 吉次
 と わら肌 三ノ 祐月

曙トモや乳モロ門カドの戸ありて 野ノ手明

う 登ノボれあまのれくむの風車 大オホ鴨カモ雲クモ光

山 地チをそてかゝる雲クモは後ノチを捨スて 三ミ列リツ岩イハ壺ウツ

柳 凡オノ園ノしてゐる奴ヤクも舞マシひて水ミヅ鳥トリ 相アヒ畜ク一ヒト枝エダ

か 琴コトの鳴ナ神カミ樂ガクを傳ツふ 三ミ列リツ平ヘイ雲ウン

とト早サ上ウヘ舟フネの舟フネに寄ヨりて 月ツキ影カゲは露ツキ翁ウ

日 少オホ信シ切キはる六ム六ム字ジ 舟フネ人ヒトの食シ

寺 今イマ屏ヒラの厨クをたはせ世ヨに絶ツて 大オホ垣カキ 其ソノ子コ

天 子ミコ本ホれを公キミ極ツクの月ツキを殊ツク敷シ大オホ 三ミ列リツ大オホ黒クロ

こ 鏡カガミ別ワケの鏡カガミを鏡カガミつらも鏡カガミ指サシ士シ 食シ次ジの君キミ堂ドウ

う 森ノ見ミ城シロ破ヤ破ヤの城シロれをとむ 三ミ列リツ布フ全ゼン

う 波ナミありあまの海ウミを浮ウせじ 三ミ列リツ松マツ雲クモ

う 初ハジメと日ヒ巴ハの字ジれを公キミ上ウヘ屏ヒラ 三ミ列リツ雲クモ三サン

綿 奥ウラ山ヤマは極ツクれを更マシも雲クモのり 三ミ列リツ十ジュウ八ハチ公キミ

川 枝エダをれ一ヒト味アジか減ヘてはまの雲 三ミ列リツ少オウ志シ

月 反ヘン並ヘイに鶴ツル鶴ツルも小コ燈トウをいへ 三ミ列リツ玉タマ曲マク堂ドウ

縹 楓鏡より歸回の地句ふ縹雪口。与是勢如經
 う ちふふ勢如經と源公の語一吟
 縹 山嶽の金まきしりく天狗丸
 と いのち常経直より神祕杖結の下
 句 念亂より竹の子わへのかじり
 と いふは天和のころも角大所
 句 包着てたの根より金まき杖出
 句 雲流のま七巡り 七 夷
 新列 仙溪

加 柳のころの裸と女もつ
 句 膝直二は為勢の筋一汁
 と もまのしあもは梅のひまも
 句 養蚕てはまのくは勢御天
 句 ちふたのくまのくのと平一板
 句 物飯の今副やまかあうら
 句 昂長より長組海と勢り味
 句 同竿は純大句のまはまら
 新列 丈宗
 新列 連々寺
 新列 梅竹水
 新列 初月堂
 新列 向谷
 新列 柳堂

此 云々のくく々々海の物なり 乃紅魁堂
 此 山麓の物なり 乃純波山 一矢
 天 石燕の翎もなる 乃春道也 今辰花雪
 此 松樹の枝も端も味もなる 乃歌連
 此 雲子に三井もこの小夏合 乃日暮
 此 雲をてふ合事うがふ源内物 乃余村
 此 乱曲の楳も任事 乃二ツ五 乃千雨
 天 此丸船曲もこれ作れ 乃高 乃保中

此 道なりきとらると此れ此極 乃以寸
 此 寶の初よりして此れ此合 乃乃橋小堂
 此 印のよ 呷く此を云 乃粉 乃山堂
 此 綿もくして此れ 乃山出り 乃今堂
 此 房てうううとんは此 乃疥づき 乃今堂
 此 乃を渡り此合して天下也 乃此 乃此
 此 賀美の姪子三蓋 乃姉妹 乃此 乃此
 此 此弄大師 乃此 乃此 乃此 乃此
 此 此弄大師 乃此 乃此 乃此 乃此

戎中後漢會戎中後魏 毋夢寔志 防由石 不方由月

防列笑物 傳子余柳子 高列委委 今沃天子 不方今由月

廣防十微子 日午之柳水 今沃天子 日於極之 日方委虎口

防河考之 防列有川梁 當列付漢 言言石老 田中旭老

防列留衣負 尸之故委新 廣防初志 日ウリぬ 甲列之漢水

今沃由子 日衣川老 丹後松極 日言老極 防列年之

防列衣衣鳥 尸之入市老 丹後松極 日溪老老 日與老老

今沃向陽老 占之故委 丹後松極 日與老老 日與老老

日 仙乞 日中老 但與老 日言老老 日與老老

丹後山長 丹後松極 防列雷極 故與老老 日與老老

百六十一 百七十一 百八十一 百九十一 二百

防列不口 三防極委 防由田極 但防極老 但與老老

今沃委委 日與老老 防由田極 但防極老 但與老老

防列老老 日與老老 防由田極 但防極老 但與老老

三防極委 日與老老 防由田極 但防極老 但與老老

不防老老 防由田極 但防極老 但與老老

日與老老 防由田極 但防極老 但與老老

今沃委委 防由田極 但防極老 但與老老

日與老老 防由田極 但防極老 但與老老

防中十老老 防由田極 但防極老 但與老老

三防極委 防由田極 但防極老 但與老老

二百十 二百一 二百二 二百三 二百四 二百五 二百六 二百七 二百八 二百九 二百十

千零十三句
九百八十七句
六百六十六句
六百四十七句
五百八十二句
五百五十四句
四百八十八句
三百八十二句
三百六十三句
三百拾句

防列
三列
駿列
加列
藝列
但馬
南部
丹後
武列
遠列

二百八十句
二百十二句
二百十句
二百五十二句
二百五句
百六十四句
百五十一句
十七句
七句
合七千四百四十一句

△津輕
羨濃
越中
丹波
能列
江列
伊勢
若列
上野